



3月14日、青年教育センターで開いた「みんなのゲーム講習会」。みんな楽しそう

毎月発行しているレクコミ

日本レク協会総裁・三笠宮殿下と市レク協会会員（県レク大会・新潟市）



「努力なくしては勝てない」を信念とする真島鉄柱さんは、現在アロカ株式会社取締役社長として活躍。八百人の従業員が働くこの会社は、医療機器などの研究開発と販売を行っています。

「当社の開発した製品ですか？ 鹿児島医大で山下さんの五つ子が胎内にあることを診断した超音波診断装置、原子力発電所周辺に設

置された放射能測定器、それに伊豆大島近海地震の前兆をキャッチしたラドン測定器などがあげられるでしょうね」と、真島さん。

一の町に生まれ、白根小学校、巻中学、電機学校（現東京電機大学）を経て、日本無線株式会社に入社。昭和二十四年にアロカに出向し、五十二年社長に就任するまで、研究開発一筋に歩まれました。

「こんなこともありましたが、それまで手動のストップウォッチを使っていた水泳競技に、百分の一秒まで測定できるデジタル時計を考案、三十三年のアジア大会に使用されました」と、懐かしそう。

こうした実績が認められ、原子力委員会や放射線審議会の専門委員などの要職につかれ、五十三年には通産大臣賞を受賞されました。

一方、東京白根会の副会長としても活躍され、「和気あいあいの楽しい会ですね。東京で天気予報を見ていても、新潟の天気が気になるのと同じように、ふるさとの良さは離れて初めてありがたさがわかるんですね」と、社用で白根に立ち寄られた真島さん。ふるさと白根の思い出をかみしめるように、しみじみ語っていました。

研究開発ひとすじに四十年

真島鉄柱さん（東京都調布市・会社社長・64歳）



社用で白根に立ち寄られた真島さん。同級生のみなさんと思い出話に花が咲く



入社式の社長訓示。社員からは気さくでめんどろみのいい社長と、評判が良い



第十九回東京白根会総会

東京白根会であいさつする真島副会長



工場内で製作される超音波診断装置

楽しいまちづくりをめざして

白根市レクリエーション協会

五十五年五月、サークルゆにれつくのOBを中心に結成。以来、指導者養成事業や、レクリエーション行事の開催、指導者の派遣のほか、調査研究活動を行っています。

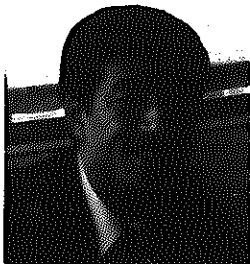
押見義弘会長を中心に、個人会員が二十一、団体会員一団体（サークルゆにれつく・会員三十四人）で組織され、レクリエーションの輪を市内に広げ、うるおいのある楽しいまちづくりをめざしています。

障害者レク講習会をはじめ、これまで四回の講習会には、延べ百九十五人の参加があり、レクリーダーを次々と地域や職場に送り出しています。また、文化の日を中心に青年教育センターで行ってきた「レク展」では、記録に挑戦コーナーが好評で、六百八十人の入場者がありました。

次に、この協会の特色は、レクリエーション専門のミニコミ紙「レクコミ」を、毎月発行していることでしょう。創作ゲームの紹介や、あらゆるレクリエーション情報をめねなく紹介し、普及啓蒙活動を行っています。

依頼があればレク指導者を派遣したり、企画もお手伝いしています。詳しくは、市社会教育課（☎3171）へおたずねください。

会員の声



布川一男さん（会社員・東町）

独身のころは、青年学級やサークルゆにれつくで、青年活動に没頭。青年教育センターに、毎晩通いつめました。

二人の子供の父親になった今、何をすることも家族ぐるみで、ファミリー・レクリエーションを大切にしています。協会の自慢は、毎月発行している「レクコミ」。みなさんにも購読をお勧めします。



市民でにぎわうレク展会場